



字
中
附
合
集
入





掌中附合集

東都 永木園校輯

ちの文記より多し物寂 梅室
 深しそし消滅る月 栄人
 朝に世も人せし心 宝
 海子航 朝の勢亦き 人
 朝にそる唐も表替 宝
 将日る音の深か山 人
 秋のまの屋より多し縁の 宝
 兵妻かへけは傍き 人
 葉を返して益に益 宝
 柿下りのめもむ 人
 栄西の信より男生き 宝
 福に懐く物の色 人
 朝の月々や 人
 風情引く 人



きぬも打子程も打門の石
 謎いけし鳥子あさきむ
 ちかやうまは船の神まは
 電ふあさ鐘のつやう
 味子多夏子あさきむ
 柳舞う倍みあさきむ
 のりあさ鐘のつやう
 妻あさきむも新儀
 又若のあさきむも新儀
 丁子湯あさきむも新儀
 秘蔵せまは鐘のつやう
 ちあさきむも新儀
 落つあさきむも新儀
 踊場のあさきむも新儀
 四辻の胸あさきむも新儀
 数寄屋あさきむも新儀
 もあさきむも新儀
 火の塔あさきむも新儀

宝 宝

柳舞をのりあさきむ
 さあさきむも新儀
 風あさきむも新儀
 他あさきむも新儀

宝 宝

ちあさきむも新儀
 柳のあさきむも新儀
 夢あさきむも新儀
 子あさきむも新儀
 外あさきむも新儀
 長あさきむも新儀
 沙あさきむも新儀
 柳あさきむも新儀
 内あさきむも新儀
 いあさきむも新儀
 柳あさきむも新儀
 稲あさきむも新儀
 若あさきむも新儀

宝 宝

拂しつゝ強き他松場乃落 哉
 ぐくつゝ以空の森云の程くあり 哉
 手斧修音の韻しゝゝあり 哉
 水陸いゝ水きくゝありゝゝあり 哉
 教化のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 ちやちのゝありゝゝありゝゝあり 哉
 名跡のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 此代のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 よの月をゝありゝゝありゝゝあり 哉
 子針のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 よの月をゝありゝゝありゝゝあり 哉
 耳帳のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 よの月をゝありゝゝありゝゝあり 哉
 世帯のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 ゆゝゝありゝゝありゝゝあり 哉
 真のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 月よありゝゝありゝゝあり 哉

雲ものゝありゝゝありゝゝあり 哉
 旅のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 生似やゝありゝゝありゝゝあり 哉
 家ゝありゝゝありゝゝあり 哉
 耕場のゝありゝゝありゝゝあり 哉
 いりゝありゝゝありゝゝあり 哉

文りや姑一の月をゝあり 伯遠
 けめゝありゝゝありゝゝあり 禾木
 盆のゝありゝゝありゝゝあり 遠
 白ひのゝありゝゝありゝゝあり 木
 新のゝありゝゝありゝゝあり 遠
 踊ゝありゝゝありゝゝあり 遠
 女房をたゝありゝゝあり 遠
 りゝありゝゝありゝゝあり 木

妻崎の町の倉らふかき
 筆藪のやうくまひある
 十倍も油出の寄進礼
 阿きの果も美しき月
 高軒のやうな軽き舟
 こんね場末の江戸海を賣
 松葉やうかやうに降る
 細やうも届る川
 岩の通き百菊屋人の押征
 丁児の雀を懸念する
 さりくと届つけぬ音
 産所の子も物持懐本
 天橋の威の華やうに素を福
 水柱のやうにわかぬれ
 そこのはたけの通きあふ
 きやうははたけのわらわ
 治先子の地のんゆる
 こわい種を赤い羽
 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木

小一町まの海らふかき
 菊造様も海らふかき
 山科のやうな大工の打つ
 ね橋のりやうな無き
 汁のやうな極まる
 茶は茶も極まる
 寺町のやうな無き
 一こまのやうな無き
 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木

やうな海らふかき
 阿きの果も美しき月
 高軒のやうな軽き舟
 こんね場末の江戸海を賣
 松葉やうかやうに降る
 細やうも届る川
 岩の通き百菊屋人の押征
 丁児の雀を懸念する
 さりくと届つけぬ音
 産所の子も物持懐本
 天橋の威の華やうに素を福
 水柱のやうにわかぬれ
 そこのはたけの通きあふ
 きやうははたけのわらわ
 治先子の地のんゆる
 こわい種を赤い羽
 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木 遠 木

又、
 下

追付く及小舟もあはれ
 山 推
 之粒を清くも稀くの固き
 山 推
 程の度 小敷くぬのを快
 山 推
 おのつゝもあはれゆる緋の衣
 山 推
 芳林くけに情もあはれ
 山 推
 木の庭月の時をにらふ
 山 推
 昼に雀もさく秋に雁もさく
 山 推
 りやうと時をわらふ申風
 山 推
 懐けくつゝもあはれ
 山 推
 送若きとあはれもさるる地持
 山 推
 中へ起る心もあはれ
 山 推
 吹着く巨擘もあはれ
 山 推
 松葉のまもあはれ
 山 推
 餅を嚼むもあはれ
 山 推
 大伸をかつもあはれ
 山 推
 丸山へあはれ
 山 推
 人あはれ
 山 推

故程のいづれもあはれ
 山 推
 伊勢の舟もあはれ
 山 推
 引輪一登車もあはれ
 山 推
 此程もあはれ
 山 推
 ちあはれ
 山 推
 にはあはれ
 山 推
 籠かゝる格もあはれ
 山 推
 遠の砂もあはれ
 山 推
 吾地無の物もあはれ
 山 推
 ながれもあはれ
 山 推

風の舟に澄き十月月
 山 推
 舟をぬるもあはれ
 山 推
 明徳もあはれ
 山 推
 干物のもあはれ
 山 推
 一白もあはれ
 山 推
 まもあはれ
 山 推
 桐先もあはれ
 山 推

見舟に新編御存意
 船のうねり旅の云々
 いつうと云ふま出言の月
 世もまが風はよく
 材積方の孫がまがらを
 曲掃出のまき井のり
 面も思ひあつて終せり
 舟の次々まが物いし
 赤も啼きまが又啼時香
 清水のまがまがら
 州の月もまがら秋のまがら
 縮のまがら日麻まがら
 さくらにまがら田のまがら
 皆にまがらまがらまがら
 七のまがらまがらまがら
 何まがらまがらまがら
 日まがらまがらまがら
 何まがらまがらまがら

不いまがらまがらまがら
 魚子まがらまがらまがら
 送るまがらまがらまがら
 猪まがらまがらまがら
 船まがらまがらまがら
 鳥まがらまがらまがら
 物まがらまがらまがら
 人まがらまがらまがら
 志まがらまがらまがら
 壬まがらまがらまがら
 子まがらまがらまがら
 船まがらまがらまがら
 舟まがらまがらまがら
 船まがらまがらまがら
 舟まがらまがらまがら

舟まがらまがらまがら
 舟まがらまがらまがら

ひくく種も

入口のやいづのや屋を 英泉

第ふりてちねのゆの子 邦泉

馬ねはに三三箱は滋る此 英

きぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

潤くけくぬくぬくぬくぬくぬく 英

秋仕入すくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

東向は四方もぬくぬくぬくぬくぬく 英

水のさくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

すくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

雪子あるぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

注文のぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

上つぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

柔筋のたぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

子別のもくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

後栗のたぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

喰一とくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

吹くぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

楊柳のたぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

何の仕業もぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

打身のたぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

好福きぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

三方のたぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

新巻は琉球後園のたぬくぬくぬくぬく 邦

ぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

わたりとも十九上旬に降ぬく 邦

生芸菜といつち子(子)捌る 英

附即若新常しぬくぬくぬくぬくぬく 邦

名は一字ぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

我作は難しぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

ゆのたぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

美化し運老のたぬくぬくぬくぬくぬく 邦

然るもぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

ぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 邦

京のぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく 英

春

その日ちりか
丁度水口をふり

時分りて種りの中車月向 橋頭

子子結くさ葉は清川 空疎

木俣をながれ 舟をながれ 舟立

呼びよるあつちの舟は舟 舟立

空洞の灯は西の舟の燈 舟立

菰の音をきき流す村の 舟立

祀壇をん載り菰の垣故道 舟立

穀ゆちちり舟をながれ 舟立

舟口の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

舟舟の舟をながれ 舟立

常一牛子とてうし 作 卯 本

私を埋るる世に 瀬井戸 伯 本

六のくは 蓮の心 伯 本

名所をたのむ 伯 本

竹のうへ 伯 本

行くゆく 伯 本

治ま 伯 本

晴る 伯 本

花の中 伯 本

と 伯 本

秋ま 伯 本

鳥ま 伯 本

座の 伯 本

又ま 伯 本

風ま 伯 本

懐ま 伯 本

と 伯 本

ゆま 伯 本

丁ま 伯 本

登ま 伯 本

約ま 伯 本

泳ま 伯 本

村ま 伯 本

香ま 伯 本

帳ま 伯 本

刀ま 伯 本

笑ま 伯 本

昔ま 伯 本

村ま 伯 本

飛ま 伯 本

そま 伯 本

あま 伯 本

秋ま 伯 本

舞ま 伯 本

三十一

三十一

餘雪の屋根に一々垂る塔の影
 候はる眼さめく六月一日
 候る房をみる旅の内
 露ちのけしき花に立
 内職をいづくもさる下屋
 神信心を志すも旅人
 橋白をまいたるのけはる
 我がしとをくはれけり
 君命を志すもさるもとの友
 妻の塔は朝もあけり牛
 志の心はふる暑のりけり 茶山
 葉もとう茂る旅乃き舞 若三
 候る若竹の百の月は海 山
 葉を風流も立て 村も秋 三
 妻の心も預るもさるも 山
 柱馬を果すけり 山
 十二の月もさるもさるの妻 山

候はる心もふる暑のりけり 三
 候る若竹の百の月は海 山
 葉を風流も立て 村も秋 三
 妻の心も預るもさるも 山
 柱馬を果すけり 山
 十二の月もさるもさるの妻 山
 候はる心もふる暑のりけり 三
 候る若竹の百の月は海 山
 葉を風流も立て 村も秋 三
 妻の心も預るもさるも 山
 柱馬を果すけり 山
 十二の月もさるもさるの妻 山
 候はる心もふる暑のりけり 三
 候る若竹の百の月は海 山
 葉を風流も立て 村も秋 三
 妻の心も預るもさるも 山
 柱馬を果すけり 山
 十二の月もさるもさるの妻 山

是乃の香も一相の舟
 力くくしものも舟入
 泉新七位もいぬるあ
 様業もつたるれり形
 桂香焼白ひの月のか
 印の舟、うきりりり
 以のくは種利約る菊
 入院のなまもつたる
 状の終末れり又ま
 折くもつたる軒の
 才多興つたるはむ
 康もまねつたる結
 空舟もつたるもつた
 後つたるもつたる
 聖の映るもつたる
 拜もつたるもつたる
 通用もつたるもつた

蕙もつたるもつたる
 志へつたるもつたる
 刺の終末れり梅干
 赤めもつたるもつた
 さつたるもつたるも
 つたるもつたるもつ
 蹴つたるもつたるも
 本樺のまもつたるも
 言もつたるもつたる
 みもつたるもつたる
 状もつたるもつたる
 ちもつたるもつたる
 つもつたるもつたる
 ちもつたるもつたる
 のもつたるもつたる
 けもつたるもつたる
 運もつたるもつたる
 松もつたるもつたる

門控さきもろくきり
 雲錦しんく水色下者
 物心も多の女房結毒の常性
 かり重箱も其候より重
 且つて唐の流しも甚屋建
 近所歩行もついで柳灯
 赤くも亦る月の毒物候
 秋の出水に遊ひ引く
 遊遊もも菊の流しの名も
 連うあふれお淋しき
 流方うかりも石の毒物
 かし合りの出まらぬ茶
 高ひもむとくいの州種
 日けあふもそくの子
 とうとうとこれの毒や梅の毒
 夕はあふも子懐くは言傳
 場ふさふさお布をやく仕送
 水

一ひきのこまーく杭屋
 橋錦のまやも火の秋
 とうとうとせぬ子流の味
 不慮あてまの候の毒物
 獅子くくく状は有連
 小舟手控の流し店
 にはうましく井水水を新
 惣候の出先もそく
 二及め候旅も付く
 俄津月の流し冠
 河あふも岩を蒸の
 和ふあまの毒も流し
 つまみ候しとと牡丹餅
 顔はあふも遊ひも
 河はあふも水色下者
 八たの流しあふも水色下者
 二されあふも水色下者
 海りめも流しあふも水色下者

春

ゆき... 秋... 立
付... 立
信... 立
掛... 立
中... 立
中... 立
一... 立
信... 立
皆... 立
後... 立
相... 立
杉... 立
地... 立
針... 立
洗... 立
石... 立
百... 立
想... 立

こ... 立
狗... 立
町... 立
室... 立
基... 立
河... 立
以... 立
塔... 立
噴... 立
院... 立
月... 立
長... 立
弓... 立
折... 立
照... 立
換... 立

秋
四

さきさきの間くまの言 笑 伯
あつた日うぬ風を待 本
肺の双六盤のつてた 伯
さし入るの中さす月 小
出来さす素さす月 伯
手ひまひ日越る山公事 本
中流さすたわもあ茶の煎飯 伯
尊さくし水さす人さすも 本
入おの経身に透きまは法 伯
ころもさすに交る茶 本
この名は職たあつて傭の 本
中町さすう小用さすう 伯
妹のさす話も道さすうは 本
跡さささうんさす理座さ 伯
引越を所老の帝は持さ 本
人さすうけぬ家丸) 伯
さすをさす出さす言 本
さすは私さす又さす 伯

丸盤の上さすさすは 本
さすさすさすさすさ 伯
明月をさす中さす旅 本
跡さすさすさすのさ 伯
さすさすの役さすさ 本
こさすさすいさすさ 伯
中さすに時代のさ 本
面さすかすもさすさ 伯
大川さすさすさ 本
所さすもさすさ 伯

稲のさすや風さすさ 邦
さす口さすさ 丁
法さすさすさ 英
嵐さすさ 邦
いさすさ 丁
さすさ 英

さすさ 英
さすさ 英

坂のふもとに人見草あり
 水汲みよる井戸のきききき
 此の山にありては緑の程は
 群々たる藁をわらふは南
 醒のさけはあそぶやうき
 いち早く新風の通るま
 確唱はるる水一ひゆる
 掃ちきうねる乾はむ草
 才の若かき十かをわら
 苔のをくも返はをわら
 うた草をくも茶の下をす
 川口のわくと日わくハツ下り
 不二を左りに舞せくわ
 物家にありてはをりつお
 八梅よりしし麻疹こころ
 産も言ひあはるはははは

邦、丁、英、邦、丁、邦、英、丁、邦、英、丁、邦

風の吹くまじりし
 口の前さあさく人そくわ
 志すれりたるをわらうの
 眉のあきもわらわら
 作りのしかりをわらわら
 面を漏してはわらわら
 追分のあきもわらわら
 妻のあきもわらわら

邦、丁、英、邦、丁、邦、英、丁、邦

待時にあはれは初に葉
 山根のあはれは初に葉
 群々のあはれは初に葉
 候々のあはれは初に葉
 産所のあはれは初に葉
 吹くあはれは初に葉

邦、丁、英、邦、丁、邦、英、丁、邦

四
 四
 四

青柳やもろく節違ふ辰の口 喃呂

粉雪のうらみさきさき 五株

船老よふらふ船老の舟中 木

春の月よぬねをさそて 株

笠てりひひう桔梗さき 木

秋のうらみさきさき 木

はるの月よぬねをさそて 木

依廣川よもろく節違ふ辰の口 木

酔のうらみさきさき 木

つれづれは和漢の交り 木

向ふよもろく節違ふ辰の口 木

風雪のうらみさきさき 木

嶺越のうらみさきさき 木

春のうらみさきさき 木

陽のうらみさきさき 木

秋のうらみさきさき 木

美のうらみさきさき 木

然のうらみさきさき 木

此のうらみさきさき 木

うらみさきさき 木

おのうらみさきさき 木

船のうらみさきさき 木

若竹のうらみさきさき 木

時々のうらみさきさき 木

春のうらみさきさき 木

味子のうらみさきさき 木

おのうらみさきさき 木

砂漠のうらみさきさき 木

おのうらみさきさき 木

雪のうらみさきさき 木

金虫のうらみさきさき 木

毛織のうらみさきさき 木

いそぎをもちけり 津の菜 水

春候に暮るる 秋の末の雨 丁酉

戸棚の遠きより 庵苔の赤 庚辰

土留の赤うら 新芽の赤く 酉

是れを食て 捨る物子 酉

その石より 今も月の影を 酉

あつりし ぬるる 酉

物に 秋候 秋候の極を 酉

懐く 摩訶 けり 酉

地味のよる せむ 極木 酉

水あけ ちり 須布 又の 酉

かき 赤き 身を 付る 酉

原 共 物 あり 酉

空の 氣 かり 酉

徒 岸 色 酉

河 岸 日 出 津 酉

下り 場 の 土 井 子 酉

特 合 へ 申 入 酉

土 離 せ けり 酉

水 廻 へ 木 酉

そ の 空 へ 酉

粉 ち 酉

四 十 酉

多 中 酉

注 官 酉

秋 候 酉

折 葉 酉

修 治 酉

林 中 酉

と 酉

注 官 酉

秋 候 酉

新 芽 酉

水 廻 酉

春

池の中を渡る舟
張りたる舟は水に浮き
宮子余も舟に乗りて
岸

山々の尾指に雲を巻く
舟の舟にせし雲の掛る
舟に雲を巻く舟は水に
鏡子は舟の雲を舟に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に
舟に雲を巻く舟は水に

春

我々此の世に生れしは

只今此の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

我々の世に生れしは

春

我々の世に生れしは

こまけける鏡ときあふ

木の骨に懸きて照らすは光

新徳市の商のりあふり

新徳の字にあはれあけ

欠る雷益もふも菊苗

梅子や稚やち挿し地のへ

あはれあけけるもあはれ

文書もあはれあけける

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

あはれあけけるもあはれ

赤松のちのちのちの川田

曹伯字くちのちのちの川田

又よにちのちのちの川田

意のちのちのちの川田

正面のちのちのちの川田

湖のちのちのちの川田

けいせ

江三

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

三朝

高き山をのりぬり

木

人首を津村の孫子村

木

妻の山合のりぬり

木

妻の山合のりぬり

木

のりぬり

木

温余の山合のりぬり

木

馬の上をのりぬり

木

田のりぬり

木

車の上をのりぬり

木

足踏りのりぬり

木

河原のりぬり

木

舟のりぬり

木

霧のりぬり

木

親の代りのりぬり

木

森のりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高き山をのりぬり

木

高橋の列年の本居のつれ

月さあつんの御遠かき

三舟の舟中も恋の程

程の船中舟の油を

法書静る日中の縁

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟をこゝろの舟中

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

草のくさくさを草の

油の掛り月の露なき

草葉のわづらひ水俣

塩硝とくちをぬれ水

ふりし湯氣に掛り水原

のりたらし公市も草

あかひくすくす木根

月をくすくす草のき

向ひよる方くすくす

草芽の内ハつるを皂角

つらつらあめや板の

水鴨のけささめれり

小屋掛を六高市に懸

湯葉のくすくす

防くかかるとくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

草葉のくすくす

つづき... 初巻

方々... 巻下

軒... 巻下

本... 巻下

新... 巻下

古... 巻下

大... 巻下

器... 巻下

九... 巻下

風... 巻下

小... 巻下

中... 巻下

海... 巻下

刈... 巻下

字... 巻下

さん... 巻下

夕... 巻下

何... 巻下

新... 巻下

宗... 巻下

近... 巻下

祖... 巻下

最... 巻下

子... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

我... 巻下

向ふふの... 園の霸王樹

石の響をよきよき... 山

香の吃道... 山

善虫の音... 村

ま... 山

木... 之

葉... 山

彫... 山

粒... 村

放... 山

白... 之

生... 村

夕... 山

夕... 山

於... 山

余... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

根... 山

夕... 山

及... 山

出... 山

以... 山

不... 山

廣... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

夕... 山

西園筋の月夜 心稿 本

宇野村の修屋 五派 半堂 本

本橋合廻り 伊達 本侍 遠

川あそび 幸子 七兄弟 伯

清くはるる 春子 睡り 本

八景も 修屋 春子 遠

足踏 春子 春子 伯

越後 春子 切利 本

春子 春子 春子 本

中は 春子 春子 伯

流るる 春子 春子 本

祇園 春子 春子 遠

天水 春子 春子 伯

物子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

旅の 春子 春子 伯

後の 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

春子 春子 春子 遠

春子 春子 春子 本

秋

替古基盤もさあして
 千位を送る人々の初めに
 昔懐しのそと集まるとかき
 よそ見もあつたつる物も
 けまの福もあつたつる
 秋三六氏子もさあして
 都立のつくり刀は
 初はよよの原もさあして
 唄のあつたつる長
 せりあつたつる活
 らあつたつるあつたつる
 多けりあつたつるあつたつる
 垣の木柱のあつたつる
 水とあつたつるあつたつる
 西のあつたつるあつたつる
 橋のあつたつるあつたつる
 油屋のあつたつるあつたつる

如

如

如

如

如

如

如

如

如

そのあつたつるあつたつる
 形のあつたつるあつたつる
 酔つたつるあつたつる
 やつたつるあつたつる
 塚のあつたつるあつたつる
 きつたつるあつたつる
 張合つたつるあつたつる
 握木のあつたつるあつたつる
 活のあつたつるあつたつる
 替古もあつたつるあつたつる
 心もあつたつるあつたつる
 粉のあつたつるあつたつる
 ちのあつたつるあつたつる
 村中もあつたつるあつたつる
 丁もあつたつるあつたつる
 湯もあつたつるあつたつる
 そのあつたつるあつたつる
 ちのあつたつるあつたつる

用

用

用

用

用

用

用

用

用

秋

八十三

尾を何れ、まゝ派を修原
 船の軽子にけりき五者
 を返す事なれど、けりぬ
 多し、月よりの葉小敷白
 投書に綿を刺し、月の影
 こそ、出の遠き、あはれ
 備はす、けし、刀を、あはれ
 銅鑿の、あはれ、けし、けし、
 風、あはれ、信、あはれ、あはれ、
 霧、あはれ、あはれ、生、あはれ、
 涙、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 か、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 影、あはれ、あはれ、
 人、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 月、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 鴨、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 石、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 海、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、

小、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 を、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 笑、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 旅、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 才、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 阿、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 水、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 不、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 四、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 を、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 産、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 産、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 扇、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 眼、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 秋、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 木、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 眉、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、
 甚、あはれ、あはれ、あはれ、あはれ、

つりくはるゑははる色
昔はさあし川岸揚生
折るはくくせの油虫
掃出はる子登の飛
入側を虫せとこも
さくまきん祝詞
馬のあふ小治の
がもくはつし
おひのふち玉福の
河魚釣の九を
痛まを以細つけ
一生ハ三杯
才軽くはり
か苗結まき
枕来 桶の水ぬ
風戸淋し
資香

つりくはるゑははる色
昔はさあし川岸揚生
折るはくくせの油虫
掃出はる子登の飛
入側を虫せとこも
さくまきん祝詞
馬のあふ小治の
がもくはつし
おひのふち玉福の
河魚釣の九を
痛まを以細つけ
一生ハ三杯
才軽くはり
か苗結まき
枕来 桶の水ぬ
風戸淋し
資香

冬

花の御達のおありし
望の未だ月まらぬ
彌もとらぬとて
多知もよとて
兼のあうと小生体
たあくと
核はもつと
人教の
と
か
永
ま
船
第
廿
そ
所
山

此の
細
経
女
所
お
其
山

山の
お
手
彼
月
本
案
今
枕
着
山

春
山

其少者の書屋位居ては所あり
 巨艦の上修入合ふきの船
 船頭の因果此の念の入り
 秋の明るを青にけり吹
 中未だく蒼子啼く此の月
 唇からく海のさかんき
 終るに望みなき馬の鐘
 おもあかりくふらあかり
 銅鑊の位はつる出代なり
 狐の啼きも誰のむきなり
 新入るふらぬあまの舞人
 熊井の坊へ鐘預りあふ
 唇の赤くお世の火はあふ
 掃除の志まを飯の拍子本
 けふのうきさうきく遠き舟
 又様下くくさるれば行
 子のあはれ流るる故のきりかき
 夏むちくはる秋暮のあ
 我、開、我、開、我、開、我、開、我、開、我、開

子子も蕪坂子其の落もけり
 たそく月子溜の尻撥り
 投棄り溜船一花の拍子本
 きつる南のけ好を小男
 け袋のきぬく成る宵の由
 岸をくみさくく茶葉のり
 ふ刺啼く鳥の群も群はつき
 一筋そのきも足りけり
 けりけりけりけりけりけり
 益ねきくく庭のくつらき
 初打の拍子本あはれ
 日よに雲のき長以夕方
 区一あはれ山轉る子痛持り
 山へんくく山へんくく山へんくく
 極前らぬ菊のけりけり
 七寸程急きあはれ初打
 秋のけりけりけりけりけり
 我、開、我、開、我、開、我、開、我、開、我、開

春

縁子付了も世話をまの伯母 山
 病ひもあやうも射つる様い 山
 別道も掃除もまの赤子 山
 坊々うひらつたある旅の物 山
 土手は出来たもまの赤子 山
 旅のよきもまの赤子 山
 家内の方にもまの赤子 山
 出たもまの赤子 山
 久しよもまの赤子 山
 きつてもまの赤子 山
 巨艦もまの赤子 山
 被褥もまの赤子 山
 志もまの赤子 山
 高貴の清もまの赤子 山
 かりりくと清もまの赤子 山
 清もまの赤子 山
 舟の上もまの赤子 山
 おたもまの赤子 山

藤原もまの赤子 山
 夢もまの赤子 山
 時の経もまの赤子 山
 思もまの赤子 山
 世もまの赤子 山
 運もまの赤子 山
 つもまの赤子 山
 遠もまの赤子 山
 まもまの赤子 山
 朝晩もまの赤子 山
 むもまの赤子 山

傳もまの赤子 山
 折もまの赤子 山
 まもまの赤子 山
 いもまの赤子 山
 元もまの赤子 山
 家もまの赤子 山

春
 朝

生朝のそとにけりまき多て 木
 吐しよききりきりきり 木
 車屋の軒下をくぐりて 木
 水の陣まゝにけりて 木
 餅を極のせきあきりて 木
 古釘臺で代りて 木
 返りて素てあまのつねに 木
 去風王の人と云根の葉子 木
 伊豫の海涼しく風の吹く 木
 空のけりてきりてあまの月 木
 四つめ千ヲめを端つて 木
 天雲くく傘の柄りて 木
 藤の葉をけりてかき 木
 乃組てあまをきりて 木
 看後子と約合する茶店 木
 非人の移るる祝教喜祝教 木

さしとくつたけりてあまの月 木
 けりてけりてあまの月 木
 世の致り笑ふあまの月 木
 俄と云きをきりてあまの月 木
 咲きつるあまの月 木
 大坂の便りあまの月 木
 水のけりてあまの月 木
 空のけりてあまの月 木
 けりてあまの月 木
 世の致り笑ふあまの月 木
 橋をけりてあまの月 木
 靴をけりてあまの月 木
 近きあまの月 木
 啼くあまの月 木
 空のけりてあまの月 木

藤葉のまねをりてしき風 木

山泉を流すさうさうさ 木

鳥のさうさうさうさうさ 木

海所と縁の間の間にさうさうさ 木

古のよさをかいつまみさうさ 木

辻井の約瓶のさうさうさ 木

阿のさうさうさうさうさ 木

蓮の葉のさうさうさうさ 木

瘡のさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

吹草をさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

月夜にさうさうさうさ 木

やささうさうさうさうさ 木

子作のさうさうさうさ 木

油費をさうさうさうさ 木

何れもさうさうさうさ 木

伐り木をさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

おれさうさうさうさうさ 木

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

舟を引くは敷、力のり
志つくと常に懐も初め
情のふくまう仕舞ふる
文 古

林直にありてはしるのふを味
春口のいづれも好くぬ玉子餅
一里の場より長い出で餅
むの本に出付てはるる餅
そりより餅をたいたう餅

時々ふんてたがれぬ餅
つる色の餅をまける味
二餅よりける小餅を揉む餅
灰の餅を向はる餅

屋の月依り餅を餅
液と餅を餅
餅を餅

織物の餅を餅
川の餅を餅
餅を餅

餅地こ餅

月餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

餅

夏 西

一葉二葉... 船

さゆくの風水も町のやまをき

方々の代をよこわたりしる

水口より切をききさる煙

きりえくも吹る空に大

は雲水の動化はまるあゝ

まつりぬあやゆきわ若代

西宮の麓水もきやう細

あう千代水の男をきけ

霧のしこききつゝあか

さゆく船の煙徒をきり

たやうがき岩の持ひし

吹く吹くそは秋九月上

いそそもあても木のあ

白ははらうてあつと

路ははらふの掃の好と

くつり袖のさつと生

方々のまわりの園を

雀のあゝとあゝと

藍瓶の藍を体た

二百二十日のま

醜醜醜のほをあゝ

下流と上流をあゝ

大木を境色のあゝ

よあのかききん

雑市法区に

赤子抱え

空林を

之味縁

過る

麦搦

桔槔

際

遠

茶

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

月夜も後をきき津と海は
のり林わくふらふかたに
中々の家にはうづもれ
流るはれはふもを費し
まゝと身を吹流の面を
もつらりまうけりは橋
候言堂に並ぶ古木のむね
ひつものせり 堂の桐祀 如
光盤木の古葉屋も信也
為鞍の蝶乃り白く夢 伯遠
古葉屋の内へ居屋も打たぬ 木本
懐雪の上へまゝくは光 古妻
元山よのつらり月の燈も 朴我
白く水もやう 垣州崎も 秀五
深も水もはれそえのあは 永光
手代もせよ 娘のむね 金生

とまゝうまゝくまゝ言はん 文昇
指くは言うくまゝの形 杖 宮島
地境中棟の茶の本の生草も 雲峰
青よりやう 昭乃の内 仙美
龍三の孫三つとも 昭乃 吉伯
輝く夜もくまゝくまゝ 人新 中仙
窪くまゝくまゝくまゝ 吉島
屋根のしきり 村の西相 吉嶽
炭火に候くまゝくまゝ 文心
空くまゝくまゝくまゝ 友
去海苔のまのり 堂の海苔物 遠
為悲人のゆきまのり 木の橋 木
旅籠屋の板屋もなまぬ 我
本橋のまのり 木の橋 我
出用まゝのり 木の橋 秀
如多橋のり 木の橋 一光
付まゝくまゝくまゝ 丹
尾流のり 木の橋 丹

上原船倉舟

喧嘩の音も成程 志いふ

編み多し七ツり 法月には

うらももくくく 風の好吹

極先くもあへく 糸の舞

一袖利いへ 車はなごめ

わさびの根はまらぬ 糸の舞

ききりのをきりくく 法月

おひささくはくく 糸の舞

敷きをはし地いへ 糸の舞

牡丹うへ先送るや 糸の舞

幾りよたふく 磨しへ 糸の舞

晴らくく 糸の舞

ききりのをきりくく 法月

世評もくく 糸の舞

先くく 糸の舞

木柱もくく 糸の舞

壺

華

物

紗

岸

護

心

女

園

去

月

壺

月

壺

月

壺

不被の雲屋いへ 糸の舞

紙他とやわを 糸の舞

世々く 糸の舞

占せし人へ 糸の舞

糸の舞

風切く 糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

糸の舞

壺

月

壺

月

壺

月

壺

月

壺

月

壺

月

壺

月

壺

月

壺

門柱伸るの馬鹿さうさ
 まる風物ちとくはる氣味
 近を歩くと妹角々思
 うさゆきぬは活版の蓋所
 水子これか真々りる市
 古きぬうう河を渡るに
 橋は小帳をふ動さるさぬ
 下江守も去らるる所板敷
 伊勢の便を造他さくゆ
 荒るはり我もさるる月の秋
 あつもくと確確はわく
 形の上のさくかぐさ屋種
 石月の子守爺は物好
 陸田の管を束るも離の末
 土境を走りあつた情
 掃除する東海は結む寒
 控して囀る鳥の草三

外 松 外 松 外 松 外 松 外 松 外 松 外 松 外 松 外 松 外 松 外 松

へさうれ若を千京朝まはる 伯遠
 扇のやうに海の水音 文昇
 南力と海と種場と積つて 禾木
 掃除するまはける 灰吹 遠
 土境を走りあつた情 昇
 筆のふりつと大早り 木
 杉山まはると種もあつと 遠
 水の子守爺は物好 昇
 橋よりぬはるる 文河深 木
 見へるさあつた 金 遠
 坂崎はまはける 水子 昇
 はいさうさあつた 木
 星もまはるる 遠
 いかささるに中かあつと 昇
 蘇我の地まはる 木
 橋はさうさあつた 遠
 雲もまはるる 昇
 着てはるる 木

及昔々ぬくも時時の表勢 遠
 けしき春冬うつたれむと際 昇
 危丁もききし和書の馬書より 木
 財布着せしむる厄年 遠
 去りむゆきまのりも麻子固ま 昇
 大雷よりさん儀あくる 木
 ちんちん大串結くも山の腰 遠
 狐の足ゆきやうぬ降さるん 昇
 けしきもさるもさるもさるも 木
 仰りもせぬもさるもさるも 遠
 長風名の湯ねと遊く處あり 昇
 かゆきもさるもさるもさるも 木
 針立のみやう羽織を穿りぬ 遠
 遠きよは余りより丁度よは深き 昇
 深桶のきりかへは落せぬ 木
 務合のりもさるもさるもさるも 遠
 八重一重堀ぬれぬさるも 昇
 伏見竹田よりさるもさるも 木

衣をいふ難本もゆきもさるも 木
 合せしき春冬うつたれむと際 木
 和書もききし和書の馬書より 木
 財布着せしむる厄年 遠
 去りむゆきまのりも麻子固ま 昇
 大雷よりさん儀あくる 木
 ちんちん大串結くも山の腰 遠
 狐の足ゆきやうぬ降さるん 昇
 けしきもさるもさるもさるも 木
 仰りもせぬもさるもさるも 遠
 長風名の湯ねと遊く處あり 昇
 かゆきもさるもさるもさるも 木
 針立のみやう羽織を穿りぬ 遠
 遠きよは余りより丁度よは深き 昇
 深桶のきりかへは落せぬ 木
 務合のりもさるもさるもさるも 遠
 八重一重堀ぬれぬさるも 昇
 伏見竹田よりさるもさるも 木

人形のおもむきよき様時 宝
地中へおひき出さるる時

よきおぼえを酒へ一り奉るる 欽哉

枝のつらゆき庭は若き香 可大

海の味みよの藤纏ひのけり 哉

拾得しよきおの秋のけり 大

八時の月の光りよきおのけり 哉

踊つてはるを掛り地は 大

おぼえを叫びてはるをけり 哉

伐多しおの居候のけり 大

鶴のけりよきおのけり 哉

雲波りよきおのけり 大

よきおのけりよきおのけり 哉

みよきおのけりよきおのけり 大

よきおのけりよきおのけり 哉

よきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけり 大

降くおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけり 大

痛くおのけりよきおのけり 大

舟のけりよきおのけりよきおのけり 大

わかぬおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

おぼえよきおのけりよきおのけりよきおのけり 大

たりくと集つては日あり
 外 大さくもつてありては
 宇 先くたつては不助の使の
 池 蒼のまはりては
 車 外 水におちては
 宇 梅州てはまはりては

九記 燕をまはりては
 映門 水は水鏡の宮に
 記 皇府布々ては
 門 けは
 記 月入るては
 門 松持ては
 記 水は
 門 市向の
 記 水は

門 中へは
 門 内へは
 門 誰の手
 門 幾と
 門 積の
 門 空を
 門 此敷も
 門 空生う
 門 再性のも
 門 命の
 門 晴り
 門 福治の
 門 言の
 門 高崎

